

基本目標1 「安全・安心・支えあい」の暮らしやすいまち

分野別政策3 誰もが元気で暮らせる健康づくり

施策 No. 10 健康づくりの推進と医療体制の充実

10年後のめざす姿 市民一人ひとりが健康に関する正しい知識と生活習慣を身につけ、市民が自発的に健康づくりに取り組むことで健康寿命が延伸しています。また、市民のだれもが適切な医療を受ける体制が整っています。

住みよさ指標	当初	単位	実績値の推移					目標値 (H37)	評価	
			H28	H29	H30	H31	H32			
1 「健康づくりを進める環境」に関する市民満足度	15.0	%	目標値	16.0	17.0			20.0	25.0	↘
			実績値	9.8						
2 がん検診受診率	15.5	%	目標値	21.8	22.5			21.0	23.0	○
			実績値	22.5						
3 特定健康診査受診率	40.9	%	目標値	50.0	60.0			60.0	60.0	→
			実績値	38.6						

総合評価	住みよさ指標の状況
C	<p>平成28年度については、大腸・肺がん検診の受診率は減少したが、胃・子宮・乳がん検診の受診率が増加したため、全体的な受診率は増加した。</p> <p>特定健康診査については、平成20年度から実施しており、過去5年間の受診率は40%前後で推移している。</p> <p>各がん検診の受診率は、年度によって増減するが、今後がん検診、特定健康診査や様々な検(健)診などを継続して実施することで、壮年期からの健康についての意識の高揚を図り、施策目的である健康づくりの推進に貢献できると考えられる。</p>

施策を構成する事業の状況

がん検診受診率については、乳がん検診実施医療機関の拡大や子宮・乳がん検診無料クーポン券の配付、未受診者への勧奨により、子宮・乳がん検診の受診者が増加しており、前出の受診率の増加に寄与している。また、受診率だけでなく、精密検査受診率の増加など、がん検診の精度管理にも取り組んでいる。

がん検診、特定健康診査をより多くの方に受診していただけるように、両検(健)診の集団セット健診や土日健診を行うなどの取り組みを行っている。

これまでの取り組み	<p>生涯を通じた健全な食生活、食文化の継承、健康の増進などを実現することができるよう、市民一人ひとりが、食に関する様々な知識と食を選択する能力を身につけることを目指した食育を推進した。</p> <p>また、健康支援センターについては、平成28年度から新たな指定管理者となり、施設の利用者数を増やすため、サービスプログラムの充実、自主事業であるスイミングスクールのレッスン数の拡大、開館日の増加や新たな料金プランの設定などの充実を図った。</p> <p>さらに、肺がんの個別検診実施や乳がん検診の受入枠拡大など、市民の主体的な健康づくりの支援を行った。</p> <p>南河内二次救急医療(入院等を必要とする医療)体制及び南河内南部広域小児急病診療体制の整備を図るとともに、休日急病診療所で急病患者を応急的に診療することで一次救急医療体制の整備を図り、市民が安心して暮らせるよう努めた。</p>
課題 (めざす姿との差)	<p>食育や健康づくりを推進するボランティアの体制整備を行っている途上である。</p> <p>健康支援センターの利用者数増加や魅力向上のための工夫や改善を図ったが、当初の目標利用者数にはまだ達していない。</p> <p>休日急病診療所における歯科患者数が減少している。</p> <p>特定健診受診率、がん検診受診率、精密検査受診率が目標に達していないものもある。</p>
今後の方向性	<p>地域の様々なニーズに対応できる食育や健康づくりを推進するボランティアを養成していく。</p> <p>健康支援センターについて、利用者数や収益の増加につながるよう、施設運営の課題共有や情報交換など、指定管理者との連携強化を図り、施設の効用を最大限に発揮できるように努める。</p> <p>休日急病診療所における診療体制の効率化を図るとともに、救急医療体制の安定的な運営を行い、不安解消に努める。</p> <p>特定健康診査の健診項目の充実など、健康生活への支援を行い、市民の健康意識を高める。</p>